

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100201		
法人名	社会福祉法人 しあわせ		
事業所名	グループホーム しあわせ		
所在地	和歌山県和歌山市中之島500-10		
自己評価作成日	平成24年11月19日	評価結果市町村受理日	平成25年2月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3090100201-00&amp;PrefCd=30&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3090100201-00&amp;PrefCd=30&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪府北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成24年12月12日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は木を沢山使い、暖かみを感じられるような作りをしています。居室は全室トイレ完備で、和室3室・洋室6室になっています。ダイニングやリビングは利用者様がゆっくりと落ち着いて過ごせるような雰囲気作りを目指しています。職員は利用者様が「居心地よくしあわせに過ごして頂く」ように努力しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、デイサービスと小規模多機能型居宅介護事業所が併設されており、利用者や家族、職員の皆も「居心地よくしあわせに過ごして頂く」を理念に掲げ、居心地よく過ごせる環境整備や家庭的な雰囲気や大切に、「ここに居てよかった」と思ってもらえる様に日々のケアに取り組んでいます。職員は、利用者の目線から見た生活の快適さを追求し、そのアイデアや工夫が随所に活かされています。ソファに座り利用者同士でボール遊びやしりとり、塗り絵など得意な事が楽しめる様に職員は支援しています。利用者と接する時の言葉遣いについて、一人ひとりを尊重した言葉遣いで対応するよう話し合い、管理者も職員も意識して取り組んでいます。地域住民の憩いの場として事業所を開放したり、地域と交流や子供との関わり深めたいとの思いが着実に実を結び、交流の輪が広がっている事業所です。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員も少しずつ共有し、実践につなげる努力を行っている。	「居心地よくしあわせに過ごして頂く」の理念を念頭に、利用者の立場に立った居心地よさを日々のケアの中で追求し、全職員に問いかけてケアしています。職員からの数々のアイデアを活かし利用者や職員も居心地よくしあわせを感じてもらえているか振り返っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所内の地域交流室等で、自治会の会合を行っている。夏には地域の子供達のラジオ体操にスペースを提供し、グループホームの利用者も参加している。また、高齢の夕涼み会にはたくさんの地域の方や利用者や家族様の参加も増えてきています。	自治会の会合や趣味クラブの集まり、地域の健康体操の場として、当事業所を地域に開放しています。地域のボランティアの訪問や、保育園児との交流、利用者が玄関先で近所の子供たちとシャボン玉を楽しめるよう気軽に出入りできるようにしています。散歩で近くの公園に行き挨拶を交わしたり、ラジオ体操に参加するなど地域との交流が着実に広がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	取り組みが不十分である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター所長、地区役員、利用者家族等の忌憚ない意見をサービス向上に活かすように努力している。	会議は2ヶ月に1回、当法人の理事長や利用者、家族、自治会長、地域包括支援センター職員等が参加し開催されています。現状を報告し、意見や要望を受け、地域の溝掃除に職員が参加したり、来年度自治会との合同防災訓練の実施計画が申し合わされるなど、会議の成果につながっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者とは気軽に相談できる関係作りに取り組んでいます。	報告事項や相談ごと、困っている事があれば事務長が市の担当者を訪ねています。市の職員が事業所を訪れた際にも現状を伝える等、気軽に相談できる関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関やデイへの通路は無施錠にしている。ただ「禁止の対象となる具体的な行為」については全職員が正しく理解出来ていないといえない。	身体拘束をしないケアを心がけ、日頃使っている何気なく言う言葉も拘束に繋がっていないか全職員が振り返ってケアをしています。管理者は、ミーティングや他事業所の事例から定期的に言葉遣いについて全職員に注意喚起しています。玄関は日中開錠され自由に出入りが出来るようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学んでいる職員も居るが、全職員が理解するまでには至っていない。		

グループホーム しあわせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受講している職員もいるが、全職員が理解していない。今後は理解し、活用出来るようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者の家族宅に出向き、管理者・ケアマネージャーが説明を行い、理解・納得して頂けるように心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	内部に苦情受付窓口を、外部には第三者委員を設置しています。その他に市、運営適正委員会等に申し出出来る旨を文章にて説明しています。	運営推進会議や月1回、訪問する日に必ず意見を聞いたり、面会時にも利用者の様子を報告しながら意見を言ってもらえる様努めています。安全のために押し車に変更してはどうか等、出された意見や要望はサービスに反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	最近では職員会議が行えていない。日々の申し送り時に意見や提案を出してもらっている。	日頃から管理者が職員を気遣い声をかけ、互いに意見が言い合える雰囲気作りを心掛けています。申し送りノートや個人面談、書き易いシートの工夫など全職員の意見を引き出す機会としています。シフトやケアに関する意見や提案が出され、サービスの質の向上へと繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来ていない。今後人事等含め、改善していきたいと考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来ていない。今後いろいろな研修に対して職員にぜひ受けてほしい研修を進めていこうと思う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いろいろな研修会や同業者の講演への参加を勧めている。		

グループホーム しあわせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	現在の入居者の全員が当法人の他のサービスを利用していた方々で、本人が困っている事、不安な事、求めている事等はほぼ理解出来ている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在の入居者の全員が当法人の他のサービスを利用していた方々で、本人が困っている事、不安な事、求めている事等はほぼ理解出来ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の入居者の全員が、入居前より当法人の他のサービスを利用していた方々で十分な話し合いの結果入居して頂いている。又、現在は満室となっているので、入居の申し込みがあった場合、他のグループホームの紹介や小規模多機能型居宅介護等他のサービスの紹介を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員にばらつきがあるも、築けていけるように努力を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一部の職員が中心になってきているが、これからは全職員が家族とそのような関係を築けるように努めていきます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた時には、次回も気軽に来ていただけるように気配りをしています。	以前住んでいた所の近所の方が併設するデイサービスに来た折に来訪があります。また住んでた家の話を聞き、職員は家の写真を撮り拡大して見てもらったり、地域の氏神参りや買い物、家族との外出や墓参りに行く等、その人にとっての馴染み場所や人の関係持続の支援されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や性格を考えて十分な配慮を行っている。時には職員を入れての関係をも考慮している。		

グループホーム しあわせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の方が立ち寄ってくれる事もあります。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中で、希望や意向を耳にすれば、ケア付き帳や連絡帳に記入し、検討していくようにしている。また、入居以前の暮らし方を参考に利用者本位を心掛けている。	見学時や入居前の聞き取りでアセスメントを行い、本人や家族の思いや暮らし方の意向を把握しています。入居後は日々の関わりで得た情報や気づきを「週間出来事集」の様式に記入しています。困難な時は、これまでの暮らし方から思いを汲み取るように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居以前より全員等法人の利用者であり、サービス利用の経過等は個人台帳にも記入しており、その都度確認するように努めている。また家族様の訪問時に話をうかがったりしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	おもに日勤リーダー、管理者は状態把握に努め、朝夕の申し送りに管理者・日勤者に伝え、意見交換を行っている。またケア付き等や連絡帳にも記入しいつでも見られるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来るだけ現状に即した介護計画を作成している。	計画作成者が中心となり職員参加の下、サービス担当者会議を開催し、利用者や家族の思いを基に、職員の意見も反映させた介護計画を作成しています。「週間出来事集」に利用者に関わった全職員の気づき等を記録し、3ヶ月毎のモニタリングに反映させ見直しに繋げています。医師の意見も反映させ変化のある時は都度見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、個人記録に記入し、その後パソコンに入力し、個別に管理している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助、入院介助したり、依然住んでいた自宅への一時帰宅等に職員が付き添いを行っている。		

グループホーム しあわせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の小学校より招待され、花火大火に参加したり、子供達のラジオ体操の場所提供し、利用者も一緒に参加しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族等の納得の得られたかかりつけ医の往診が定期的に行われている。往診の無いかかりつけ医の場合は付き添いで受診しています。	以前のかかりつけ医へ継続して受診したり往診にも来ています。当事業所の提携医は協力医と緊急時も含め、24時間連絡がとれる体制が築かれています。内科医の往診や耳鼻科や眼科、皮膚科、歯科も必要時に往診があり、日常の様子を伝え情報交換し安心が得られています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人、家族等の納得の得られたかかりつけ医の往診が定期的に行われている。往診のないかかりつけ医の場合は付き添いで対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院時には、管理者、職員が面会に行き、医師や看護師との情報交換に努めています。また、医師からの説明には管理者、ケアマネージャーも立ち会っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した利用者は入居していた時は、状態の変化に応じ繰り返し医師、家族等と話し合いの場を設け、方針を共有しています。また看取りの経験もあるが、事業所で出来る事を説明し、主治医、家族と相談しながら利用者にとって最良の方法を検討しています。	重度化や終末期についての対応の指針を入居時に説明しています。医療行為が伴わない方へは医師がその状況を説明し、職員や医療関係者とも連携しつつ、家族の思いを汲み取って最期のステージを迎える支援をし、職員の不安解消には、理事長や管理者がいつでも駆けつける体制が執られています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応講習等を受講している職員もいるが、施設内では定期的な訓練は行っていない。出来れば施設をあげて普通救命講習の受講を進めてほしい。又地域の方の参加もあればと思います。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内で年2回の消防避難訓練を実施している。また、地域運進推進会議において、地域の人々の協力を働き掛けている。	年2回昼夜を想定した自主避難訓練を実施しています。災害時は近隣のスーパーと避難場所の提携ができ、当事業所も地域に開放する案も出され、又、運営推進会議で懸案事項であった地域住民の避難場所の確保が具体化しつつあるなど、防災に向けた取り組みが前進しています。今後も自治会長への声かけや回覧板への記載等を含め地域と協力体制を図る意向です。	

グループホーム しあわせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ほとんどの職員は出来ているが、利用者・仕事に対する慣れにより、出来ていない職員も見受けられる。	排泄への声かけは周りに聞こえないようにすることや、入室時の声かけ等、全職員は利用者を尊重した対応を常に心がけてケアをしています。新人職員への入浴介助時の対応の仕方や、その方の症状を理解し尊重したケアの提供に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員にばらつきがあるも、築けていけるように努力を行っている。対する遠慮や、気遣いが無いか注意しながら、利用者に自己決定して貰うように援助しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れでは職員側の都合で行われる事があるも、利用者の個々に添った援助を支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	現在は訪問理美容を利用されています。この規模王の毛染めやパーマも行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る利用者には、テーブル拭きやおしぼり配り、配膳等を行ってもらっています。	昼食と夕食、土、日の食事はデイサービスで作られ、盛り付けや配膳、下膳、コップ洗い等の利用者のできる事に携わってもらっています。朝食は、利用者の希望を聞いて一緒に作っています。職員も一緒に同じ物を食べ、食べる楽しみがもてるよう声をかけています。誕生日会やクリスマス、行事食には工夫をして食事が楽しみとなるように取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量の記録を確認し、量が低下してきている場合は、原因を職員で考えて主治医に相談しながら体操しています。固形物の摂取出来ない利用者には経腸栄養剤の処方や細かな水分補給を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後すべての方に歯磨き、航空ケアを行ってもらっています。週1回は夕食後に義歯洗浄液に浸け、消毒・消臭を行い、就寝時には義歯を外すよう促しています。		

グループホーム しあわせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により回数を把握しており、声掛けやトイレ誘導を行っています。失禁する事で不穏になる利用者には排泄パターンを考慮して失禁を軽減するように支援しています。	排泄表に水分量や気づき等を記入し、その方のパターンや習慣を把握し、サインや表情からも排泄と読み取りトイレへ誘導し、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいます。排泄パターンを把握した支援から失敗が減少した方もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全ての職員が便秘の原因や及ぼす影響について理解できていないが、普段から水分補給、食事量や身体を動かす事が大事と考えています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は職員側がほとんど決めているが、その日の体調や失禁等によっての入浴等の対応は行っています。	月曜～土曜の間で朝から夕方までに入浴が出来るように支援しています。毎日入浴を楽しむ方がいたり、入浴を楽しめる工夫として入浴剤を使ったり、ひとり一人お湯を換え、希望者には同性介助の対応もしています。併設のデイサービスの機械浴を利用する事もあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の状態や希望を考慮し、午睡をしてもらったり、室温・湿度の調整を行い、安眠を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者ごとに「お薬の説明書」は個人ファイルに入れてあります。ただ全職員が服薬の用途、副作用等を理解は出来ていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テーブル拭きやおしぼりたたみ、おしぼり配り、食事の配膳を行っています。また、個々に好きな事(塗り絵、文字を書く事等)をしたときに行えるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブに出かけたりと出来るだけ戸外にできる事を支援しています。また季節感を感じとれるように初詣や花見・紅葉等を行い、外食をする事で社会とのふれあう機会を出来るだけ多く作っていきます。また、施設の合同バス旅行も参加しています。	玄関先に出て気分転換を試みたり、気候の良い日には近所の公園に散歩に行ったりしています。バス旅行で遠出して大衆演劇を観劇に行くことがあります。またチラシを職員と一緒に見て近所のスーパーに買い物に出かける等、日常的な外出支援に努めています。	



グループホーム しあわせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があり、家族が了承の場合はお金を自分で持ってもらっています。また、お金を使えるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望の利用者には施設の電話を使ってかけたり話したりされています。また、年賀状を家族等に出したりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花が飾られており、リビングやダイニングには床暖房で心地よい暖かさを、サニールームには日の光がさんさんと差し込んでとても明るい作りになっています。	リビングのソファは対面に配置し利用者同士が憩える場となるよう、工夫がなされています。季節の飾りつけや、生け花、壁の折り紙細工等で四季の巡りが感じられ、庭の畑や花壇の花を利用者が植え楽しんでます。リビングや一人になれる空間から見える中庭は、柔らかい木漏れ日が射し込み、温度や光等にも配慮され落ち着いた共用空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	サニールームにはテーブルと2~3脚の椅子が置いてあり、リビングやダイニングから離れているので気兼ねなく利用できます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思いでの写真や使い慣れた筆筒や小物、信仰している神棚、布団等を置いたり使ったりして頂いています。	本人や家族の希望に合わせて居室の床を、畳やフローリングに変更できます。以前使っていたタンスや仏壇などを持ち込み、家族写真も飾る等、居室がその人好みの生活様式で、馴染みのものに囲まれ、その人らしく暮らせるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人の状態に添ったもの(ベットやベット手摺り等)を使用してもらい、出来るだけ本人の力を活用できるような工夫と支援を行っています。		